

2

森を育てる会の誕生

～会の成り立ちを紐解くと～

＜カブトムシの森整備事業のはじまり＞

油山自然観察センターは87年に（財）日本野鳥の会への運営委託が決まり、88年春にオープンしました。最初の5年は市民にセンターの存在を知ってもらうための行事が多く実施されました。

90年に当時のチーフレンジャーの弦間さんが中心となり、「センター周辺の森を特に昆虫が観察しやすい環境に整備したい。子どもたちに豊かな自然体験をさせたい」というねらいを持った「甲虫（こ

うちゅう）の森づくり」「蝶の楽園づくり」という企画が市に提出されました。この提案が91年、桑原市長（当時）が行なった年頭挨拶の中で、市の三大事業の一つとして大々的に発表されました。しかもその時に「甲虫（こうちゅう）の森」が「甲虫（かぶとむし）の森」と読み替えられ、「野外でカブトムシを観察できる施設をつくる」という計画となり大きな事業となったのです。関係者は上へ下への大騒ぎになり、その後3ヵ年かけて整備事業が進められました。カブトムシの森の場所は、当時スギ・ヒノキ林でした。それらを伐採してクヌギ・コナラが植えられました。植樹した当初は苗木も小さかったため、遠めからはただの乾燥した裸地にしかみえず、無残な状況で、来園者からもなぜ伐ったのかと問い合わせがセンターに寄せられました。



支柱が添えられた幼いクヌギの木（カブトムシの森 93年9月10日）

カブトムシの森整備事業は潤沢な予算もつき、まずは事業として成功する、つまり「カブトムシが見られる」というのが大命題でした。マスコミからも注目され、市民の反響も大きく、行事への応募は、申し込みのハガキの山ができるほどでした。しかし、クヌギ・コナラの幼木だけの森に甲虫がいるわけもなく、カブトムシの観察会をおこなうために、カブトムシの放虫などの演出も行われました。



カブトムシは本来山の中にはいない、人間の生活、農業的な営みの中で育つ生き物です。油山では、観察センター開設当時でもクワガタを見ることはあってもカブトムシが夜に見られたのは数えるほどでした。当初、飼育小屋に導入されたカブトムシは金網にたくさんへばりつくほどいしましたが、それが森で増えていくことはありませんでした。また、カブトムシの飼育小屋や観察小屋が壊され、カブトムシの盗難が頻繁に起こりました。

写真は95年12月9日のカブトムシの森

＜市民ボランティアの募集＞

カブトムシ、カブトムシの合唱が落ち着いた95年、環境管理の市民ボランティア育成事業として「カブトムシの森を育てる会」が企画され、6月にメンバー募集がおこなわれました。カブトムシの森がもっと愛される場所となるよう、ただ来て見て帰るだけでなく作業を通じて積極的に関わって欲しいとの考えからの企画でした。また、当時、市民による里山保全活動が全国的に活発となりはじめた頃で、福岡でもその種を撒きたいというレンジャーの思いがありました。さらに、同じ頃、市民による里山保全活動の実践、研究の第一人者である重松敏則先生が福岡に転任されて来られたことも大きな後押しとなりました。

「横浜自然観察の森」にある環境保全ボランティアグループ「友の会」の1プロジェクトである「雑木林ファンクラブ」の事例などを参考にし、説明会やクヌギの生長調査、観察会、草刈など年4回のプログラムが実施されました。多くの親子連れの参加申し込みがありました。参加者はカブトムシを飼育する会だと思っていた人が多くいました。それで、主旨が伝わりやすいようにと翌年度の96年は「カブトムシの森を育てる会」から「森を育てる会」と名称を変えてメンバー募集がおこなわれました。

97年からはアカマツ林の管理を森会が始めるようになりました。油山の特徴的な自然環境を形成しているアカマツ林で、松枯れが進んでいるという危機的な状況に対して重松先生より手入れの必要性が指摘され、それを森会が受け、清水賢治さんが世話役となって管理作業がはじまりました。

会の運営や企画など、このころまではレンジャーがお世話をしていましたが、活動を重ねていくうち

に、メンバーに主体的な意識が生まれ、受身のボランティアから自主的な運営へと移行がはじまりました。具体的なきっかけは、作業のための道具など、活動に必要なお金が発生し、それで会計役や道具係りが生まれ、さらに、代表の選任へとつながり組織として固まっていきました。活動資金を得るために助成金が必要になり、そのためには組織化が避けられなかったということでもあります。



96年頃はクヌギをドングリから育てる苗床づくりがおこなわれていました

森を育てる会運営関係年表

－施設主導期(センター主導型運営)－

- 1992年 油山自然観察の森がカブトムシの森整備に着手
カブトムシの森オープン
- 1995 「カブトムシの森を育てる会」発足
- 1996 「森を育てる会」と会の名称を変更

－会員自主運営移行期－

- 1997年 運営についての基本方針 3項目の確認
 - ・ 会員が自主的に動けるしくみ
 - ・ やりたいことが実現できるしくみ
 - ・ ひとりに負担がかからないしくみ
- 1998 会報「森ものがたり」編集を会員が担当

－会員自主運営期－

- 2000年 会の代表に古川さん就任
日本財団より助成金交付
(財)福岡市森と緑のまちづくり協会より助成金交付
- 2002 会の規約および役員決定
「福岡市・花と緑のまちづくり地域活動功労者表彰」を受ける
- 2003 会の公式HP「森会 web」開設
自然観察の森運営協議会に参加
- 2005 さわやか福祉財団 ワンモアライフ勤労者ボランティア
賞授賞

会の概要や関係施設などの用語は資料
32～35頁をご参照ください